教育目標
やさしい子
挨拶の習慣
かしこい子
家庭学習の習慣
たくましい子
手洗い・正しい姿勢の習慣

学校だより

令和６年３月21日（木）
島原市立第一小学校　No11

「清く気高き姿をうつす　心の鏡磨きすまさん」

～　「私たちは、どう生きるか」あたりまえの幸せ　～

私たちは、知らず知らずに、自分の置かれている現状があたりまえと思うものです。そして、あらためて考え直さなければ、そのことに気づかないのではないでしょうか。そんな思いのもとに、先日行われた第７７回卒業証書授与式において、創立１５０周年の記念すべき年に、人生の節目を迎えた卒業生に、次のような、はなむけの言葉を贈りました。

ここで、卒業にあたり皆さんに、はなむけの言葉を送ります。それは、「感謝の心」をもち続け、「感謝される人」になってほしいということです。

先日、長編アニメ映画「君たちはどう生きるか」が名誉あるアカデミー賞に輝きました。これは、吉野源三郎さんの小説に大きな感銘を受けた、宮﨑駿監督が同じタイトルをつけたと言われていますが、その小説に次の一文があります。

「『ありがたい』という言葉は、よく気をつけてみると『感謝すべきことだ』とか、『お礼をいうだけのねうちがある』とかいう意味でつかわれている。この言葉のもとの意味は、『そうあることがむずかしい』という意味だ。『めったにあることじゃない』という意味だ。自分の受けている幸せが、めったにあることじゃないと思えばこそ、われわれは、それに感謝する気持ちになる。それで、『ありがたい』ということばが、『感謝すべきことだ』という意味になり。『ありがとう』といえば、お礼の心持ちをあらわすことになった。そのうえで、君の現在は、ほんとうに言葉通り『ありがたい』ことではないだろうか。」

今の自分が、自分の置かれている現状が「ありがたい」ことであるという気持ちを持ち続ければ、日本語でもっとも美しいと言われている「ありがとう」という言葉が、自然と心の底から湧き上がってくるものと思います。

皆さんも、校歌に歌われているように「心の鏡磨きすまさん」という思いを胸に、この第一小学校で学んできました。これからも「感謝の心」を持ち続ければ、きっと、磨かれた皆さんの美しい心の鏡の光は周囲の人たちの心を照らし、必ず人に「感謝される人」となることができるでしょう。そして、皆さんの未来への道が明るく照らされるものと信じています。

今、世の中を見渡してみれば、あたりまえに、朝起きて、あたりまえに勉強や仕事ができて、あたりまえに食事ができて、あたりまえに、ゆっくり布団で眠ることができる。その、あたりまえに思っていることが難しい人々がいます。「あたりまえの幸せ」には気づかないものです。ですから、そのことに「感謝する心」が大切なのです。

しかし、一小には、「あたりまえの幸せ」気づかずとも、自然に自らを律する理念が脈々と伝統として受け継がれています。　「清く気高き姿をうつす　心の鏡磨きすまさん」

校歌に記されたこの言葉は、一小に関わられたすべての皆様の心に刻まれた言葉です。この言葉のように「心の鏡」に今の自分をうつしだすことで、「あたりまえの幸せ」に気づかされるのではないでしょうか。あらためて、校歌にこめられた、一小で育つ子どもたちへの思いの奥深さを感じます。　この素晴らしい一小に関わることができて幸せでした。

「どう生きてこうか」と考えたり「どう生きてゆくのが正しいのだろうか」と疑ったりするのは、人間が人間であるという証拠ともいえるのです。「君たちはどう生きるか」より